

今日も平和だ。

を

A Dai Saku FILM

る

「教師師」

佐向大

監督作品

夜を走る

足立智充 玉置玲央

菜葉菜 高橋努 / 玉井らん 坂巻有紗 山本ロザ
信太昌之 杉山ひこひこ あらい汎 淵山セイキ 松永拓野 澤純子 磯村アメリ
川瀬陽太 宇野祥平 / 松重豊

製作・大杉弘美 プロデューサー・村田信央、片山武志
撮影・渡邊寿岳 照明・水瀨真寛 音響・弥栄裕樹 助監督・玉澤恭平 編集・臨本一美
撮影協力・武蔵野金属 制作協力・SS工房
製作・TOEKK★12、クイーンズカンパニー、Takanôプロモーションプロジェクト、マーメイドフィルム、ハロマイン

助成: 文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

2021年 / 日本 / カラー / シネスコ / 5.1ch / 125分

配給: マーメイドフィルム、コヒアボア・フィルム ©2021「夜を走る」製作委員会

夜を走る

〈罪〉を背負ったふたりの男が、
夜のロードサイドを彷徨する——。
果たして彼らに、
〈夜明け〉はやってくるのだろうか。

郊外のスクラップ工場で働くふたりの男。ひとりには40歳を過ぎて独身、不器用な性格が災いして嫌味な上司から目の敵にされている秋本。ひとりには妻子との暮らしに飽き足らず、気ままに楽しみながら要領よく世の中を渡ってきた谷口。退屈な、それでいて平穏な毎日を通り過ぎてきたふたりだったが、ある夜の出来事をきっかけに、彼らの運命は大きく揺らぎ始める……。

使いものにならなくなった部品はいとも簡単に交換され、何事もなかったようにぐるぐる廻り続ける社会。悪が悪を生み、嘘に嘘が塗り重なり、弱いものたちがさらに弱いものたちを叩く。この無情の世界をどう生きていったらいいのだろうか——そんな答えなき問いに真正面から立ち向かい、偏在する矛盾と対立を丸ごと呑み込みながら、それでも尚、救済の可能性、解放への道標を、規格外のスケールで探し求める映画が誕生した。速度と興奮に満ちたサスペンス、一寸先は予想もつかぬ怒涛の展開、そのあいまに漲る切々たるリリズムと無骨なユーモア——目眩にも似た驚きを与えながら、観る者を異次元へと連れ去る恐るべき怪物、それがこの『夜を走る』である。

構想9年。
『教誨師』の佐向大が
破格のヴィジョンで描く
絶望と再生、その先の物語。

主演の秋本に『きみの鳥はうたえる』など数々の作品で幅広く活躍する足立智充。絶望と希望の狭間でめがく男を変幻自在に体現。谷口に『教誨師』の死刑囚役で毎日映画コンクール新人賞を受賞、NHKドラマ「おかえりモネ」などでも印象的な姿を見せる玉置玲央。他に『夕方のおともだち』の葉葉葉、『新聞記者』の高橋努、『罪の声』の宇野祥平、本格的な映画初出演の玉井らん、そして松重豊など日本映画界を代表する実力派俳優が結集。監督は、死刑囚たちと対峙する聖職者を描いた大杉漣最後の主演作『教誨師』で高く評価された佐向大。構想9年、本来なら大杉初のプロデュース作となるはずだった渾身の一作を、練りに練られたオリジナル脚本で完全映画化。

もはや修復できないほどぶっ壊れた世界。その事実を直視することなく、永遠に続くかのように繰り返される日常。その先にあるものは何か。『夜を走る』は、夜明けを目指して疾走する。

2021年 / 日本 / カラー / シネスコ / 5.1ch / 125分
配給: マーメイドフィルム、コビアポア・フィルム
©2021『夜を走る』製作委員会

mermaidfilms.co.jp/yoruwohashiru/



5月、ロードショー

特別鑑賞券 ¥1,400-(税込) 発売中

劇場窓口、メイジャー通販にてお買い求めの方に「オリジナル・ポストカード」をプレゼント



新宿駅東口 伊勢丹メンズ館隣 B1F
「テアトルシネマグループ」
テアトル新宿
03-3352-1846
tteg.jp

渋谷・文化前村交差点左折
ユーロスペース
EUROSPACE
03-3461-0211
www.eurospace.co.jp